

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
115	2006/09/26	60507	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレアーゼ	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
116	2006/09/26	60508	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	デオキシリボヌクレアーゼ	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
117	2006/09/26	60509	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	トリプシン	ウシ脾臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
118	2006/09/26	60510	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ハートインフュージョン培地	ウシ心臓、ウシ骨格筋、ウシ脂肪細胞、ウシ骨髄、ウシ結合組織	米国、カナダ、オーストラリア	製造工程	無	無	有			
119	2006/09/26	60511	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊維血液	ウサギ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	有			
120	2006/09/26	60512	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	有			
121	2006/09/27	60475	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
122	2006/09/27	60514	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	日本	有効成分	無	無	無			
123	2006/09/27	60515	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
124	2006/09/27	60516	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
125	2006/09/27	60517	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
126	2006/09/27	60518	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家免疫皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
127	2006/09/27	60519	ベネシス	①②ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ③人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血液	①日本②③米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	輸血関連の新しいvCJD1症例が最近診断された。患者は、献血をした約20ヶ月後にvCJD症状を呈したドナーからの輸血を受け、輸血後約8年でvCJDを発症した。患者はまだ生存している。本症例は3例目の輸血によるvCJD感染例である。
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	インド洋海域からフランス本土への帰国者の中にチングンヤ感染者が発見された。フランス保健省によるとチングンヤ熱は治療法もなく、ワクチンもなく、フランス領レユニオン島では77人が死亡し、現在も人口の約20%が感染している。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健常ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性であり、既知のVesivirusと関連があった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	サル泡沫状ウイルス(SFV)は非ヒト霊長動物で蔓延している非病原性感染症であるが、唾液を介して伝播すると考えられている。最近ヒトでの感染が報告された。SFVが血液を介して伝播するかを調べるため、SFV陰性アカゲザルに生物学的および遺伝的に異なったSFVIに感染した2匹のアカゲザルの血液を輸血し、ウイルス感染および持続、抗体反応、臨床的变化をモニターした。接種後1年目の結果から、全血でSFVが伝播することが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	<p>土壌ミネラルと病原性プリオン蛋白(PrP<sup>Sc</sup>)の相互作用を検討することによって、土壌がTSE蓄積体として提供される可能性を調べた。その結果、2種類の粘土ミネラル、石英および4種類の全土壌サンプルにPrP<sup>Sc</sup>が吸着し、感染性も維持されることが明らかとなった。我々の研究結果は、土壌環境に入ったPrP<sup>Sc</sup>は生物に利用できる形態で維持され、プリオン病の動物感染を永続させるとともに、他の種をこの感染性病原体に曝露させる可能性があることを示している。</p>
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	<p>1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。</p>
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	<p>マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM, MV, VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。対照的に、vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMIは感染効率が高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVIは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。</p>
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	<p>今回われわれは血液感染のハイリスクグループである血友病患者におけるHEV抗体の陽性頻度を調査した。その結果、調査した血友病患者80例の内の13例(16.3%)がHEV抗体陽性であった。過去の研究では日本人の供血者におけるHEV抗体の陽性率は3.7%、透析患者で9.4%と報告されており、血友病患者におけるHEV血液感染の可能性が示唆された。また、他のウイルスマーカーの陽性率については、HEV抗体陽性例と陰性例では差は見られなかったが、年齢が高い方がHEV抗体陽性例の割合が高かった。</p>

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	北海道地区において試験的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												バルボウィルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウィルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウィルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
128	2006/09/27	60520	ベネシス	①②③人血清アルブミン ④乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子 ⑤乾燥濃縮人血液凝固第Ⅲ因子	人血清アルブミン	人血液	①②④⑤日本 ③米国	①②③有効成分 ④⑤添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60519に同じ
												バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	60519に同じ
												ウイルス感染	ProMed20060225- 0619	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38 804.511644.55	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60519に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006; 520: 231	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	60519に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Science 2006; 313: 92-94	60519に同じ
												バルボウィル ス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	60519に同じ
129	2006/09/27	60521	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第 Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2006年2月9日	60519に同じ
												A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	60519に同じ
												バルボウィル ス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	60519に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	60519に同じ
												ウイルス感染	ProMed20060225-0619	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	60519に同じ
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	60519に同じ
												ウイルス感染	J Med Primatol 2005; 34(S1): 333	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: e32	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ Online doi:10.1136/bmj.38804.511644.55	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	60519に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47(Supplement1): A168	60519に同じ

JD	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	日本輸血学会誌 2006: 520: 231	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006: 367: 2068-2074	60519に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006: 313: 92-94	60519に同じ
												バルボウィルス	Thromb Haemost 2004: 92: 838-845	60519に同じ
130	2006/09/27	60522	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
131	2006/09/28	60523	三菱ウェルファーマ	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE Disease Information 19(18) 2006年5月4日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 4(2006年3月29日から4月30日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-青海省 Haiyan郡。ウシ疑い例17例、症例4例、処分17例。ヒツジ/ヤギ疑い例14例、処分14例。ブタ疑い例3例、処分3例。
												E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
132	2006/09/28	60524	化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	第80回 日本感染症学会総会・学術講演会	日本におけるヒトボカウイルス(HBoV)検出状況を調査した。2002年10月～2003年9月、2005年1月～7月の2シーズンに、小児下気道感染症患者318例から採取した鼻咽頭スワブより抽出したDNAをPCRし、塩基配列を決定した。318例中18例(5.7%)でHBoVが検出され、検出された患者の年齢は7ヶ月から3歳で、検出月は1月から5月に集中していた。HBoVは様々な呼吸器感染症の原因ウイルスになっていると推定された。
												ウイルス感染	カナダ Public Health Agency of Canada 2006年5月26日	カナダ公衆衛生局は最近4例のカナダ入旅行者でチクングンヤ感染が原因と思われる疾患を確認した。これらの患者はレユニオン島などへ旅行し、2月から3月の初めに発症した。ヨーロッパでも帰国者による輸入例が報告されている。インド洋南西諸島で2005年3月から2006年4月22日までの間に公式に報告されたチクングンヤ感染例は3877例であるが、実際には255000例に達すると思われる。インドでは2005年12月以来、チクングンヤウイルスのアウトブレイクが報告され、2006年4月20日現在、153324例に達する。
133	2006/09/28	60746	伊藤ライブサイエンス	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘液	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED20060412-0060 Boston.com 2006年4月11日 PLoS Med 3(5): e218 2006年4月11日	60420に同じ
												炭疽	OIE Disease Information 19(19) 2006年5月11日、19(20) 2006年5月18日、19(28) 2006年7月13日	60420に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060730.2107 ProMED-mail20060802.2141 ProMED-mail20060806.2195 ProMED-mail20060808.2228 ProMED-mail20060811.2257	60420に同じ
134	2006/09/29	60430	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
135	2006/09/29	60431	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
136	2006/09/29	60432	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
137	2006/09/29	60433	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	60430に同じ
138	2006/09/29	60434	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
139	2006/09/29	60435	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液製剤	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液製剤	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	有	無	無	レプトスピラ症	Int J Syst Evol Microbiol 2006; 56: 593-597	タンザニアではレプトスピラ症の感染率は家畜やげっ歯類で一般に高い。家畜から単離されたレプトスピラを血清学的および分子学的に同定を行ったところ、RM1とコードされた単離体は、セログループIcterohaemorrhagiaeのL.kirschneri種の新しい変異型であり、Sokoineと名づけられた。
140	2006/09/29	60503	日新製薬	ダルテパリンナトリウム製剤	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	無	無	無			
141	2006/09/29	60504	日新製薬	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
142	2006/09/29	60505	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO <a href="http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html">http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html</a>	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13か国にのぼる。
												鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ムンプス	AABB Association Bulletin #06-04 2006年4月26日	アイオワ州では2005年12月以来、おたふくかぜが大流行中で、2006年4月20日時点で、疑い例も含め、1000例以上がアイオワ公衆衛生部に報告されている。おたふくかぜの輸血による伝播に関する現在の知見に基づき、AABBの輸血伝播病委員会およびFDAは、血液収集施設が行うべき予防的アプローチを承認した。
												パルボウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 154-158	ヒトパルボウイルスB19DNA(1.6x10 <sup>4</sup> IU/mL)を含むプール血漿の輸血後、B19 IgG陽性の患者では抗体価が19-39 IU/mLから50-100 IU/mLに上昇して再感染を防いだ。それに対し、陰性の患者では、1.6-2.2 x 10 <sup>4</sup> IU/mLのB19DNAの存在下で、プール血漿のIgGレベルが59.5 IU/mLではB19の伝播とセロコンバージョンを防ぐのは不十分であることがわかった。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrPcは全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrPcの局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrPcが一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrPcが存在するという事は、血中でのPrPc輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement <a href="http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_ejd.htm">http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_ejd.htm</a>	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 <a href="http://www.sundayherald.com/54442">http://www.sundayherald.com/54442</a>	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイピーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	The Guardian 2006年5月2日	英国は、1990年代に輸出された英国製の血液製剤からのvCJD感染の危険性について、輸出先の14か国に連絡を行った。輸血を介したvCJD感染は英国では3例報告されており、未発症の感染者からの供血により引き起こされる災害の「第二の波」が懸念される。最も危険性の高いブラジルとトルコや、ブルネイ、アラブ首長国連邦、インド、ヨルダン、オマーン、シンガポールに予防措置をとるよう勧告した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジシマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(4): 060420	2005年4月1日から2006年2月28日の間に、フランスで307例のチクングンヤ輸入例が同定された。平均年齢は47歳(7-81歳)であった。月別の輸入例数はレユニオンでの発生状況と関連が見られた。自発例は2006年3月に1例発生したが、輸入例患者を看護した看護師で、インド洋への旅行歴はなく、血液の暴露による感染と考えられた。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 693-701	ヒトにおけるVesivirus感染を調べるために、米国オレゴン州の赤十字血液検査研究所で1996年から1999年に供血者から集められた血清765例について検査した。その結果、抗体陽性率は、健康ドナー群で12%(374例中44例)、高ALT値群で21%(350例中73例)、感染が原因と疑われる肝炎患者群で29%(41例中12例)、輸血または透析に関連した肝炎患者群で47%(15例中7例)であった。RT-PCR試験を実施した112血清検体中11検体(9.8%)が陽性で、既知のVesivirusと関係があった。